

## 会 告

## 第 102 回 (昭和 56 年 11 月) 講演大会講演募集案内

申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和56年 7 月15日 (水)

本会は第 102 回講演大会を昭和 56 年 11 月 1 日(日), 2 日(月), 3 日(火) の 3 日間京都中小企業会館において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和 56 年 7 月 15 日(水) までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演概要は英文化 (所定のタイプ用紙 1 枚) し, Trans. ISIJ に投稿できるようになっておりますので, 多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。投稿締切: 昭和56年11月30日 (月)

## 講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術, 技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
  - 1) 原稿は目的, 成果, 結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
  - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針, 特色, 成果等が必ず盛り込まれているものとする。
  - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
  - 4) 謝辞は省略して下さい。
  - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙 (1600字詰) 1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。(いずれも表, 図, 写真を含む) ただし編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
  - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
  - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
  - 8) 講演概要およびスライドの図, 表, 写真中の表題ならびにその中の説明は原則として英文といたします (講演大会に参加する海外会員の便宜をはかるため)
  - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
  - 10) 原稿の書き方は鉄と鋼 Vol. 66, No. 13 会告末に綴込まれております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は, 所定の入会手続きを済ませたうえ, 講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限
  - 1) 講演申し込みは 1 人 3 件以内といたします。
  - 2) 連報講演は原則として一講演会あたり 3 報までとします。
6. 申込方法 本誌会告末に添付の講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上, 講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
  - 1) 申込用紙は (A), (B), (C) とも太字欄をのぞき 楷書でご記入下さい。(申込用紙は, 本誌会告末に綴込まれております)
  - 2) プログラム編成上の参考といたしますので, 「講演分類欄」に講演内容が, 下記講演分類のいずれに該当するか, 番号でご記入下さい。
  - 3) 講演者には氏名の前に○印を, また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
  - 4) 講演要旨は, 情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず, 受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
  - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
  - 2) 必要事項が記入されていない申込
  - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報, 電話による申込

4) 鉛筆書き原稿，文字が読みづらいもの，印刷効果上不適当と認められるもの

9. 申込締切日 昭和 56 年 7 月 15 日 (水) 17 時着信まで  
申込用紙，講演前刷原稿を同時提出のこと。

10. 申 込 先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
(社) 日 本 鉄 鋼 協 会 編 集 課 (電) 03-279-6021 (代)

#### 講演分類

| 製 鉄     |       | 製 鋼  |       |     |       |      | 加 工     |       |         |       |      |     |         |
|---------|-------|------|-------|-----|-------|------|---------|-------|---------|-------|------|-----|---------|
| 1       | 2     | 3    | 4     | 5   | 6     | 7    | 8       | 9     | 10      | 11    | 12   | 13  | 14      |
| 製鉄基礎    | 原料・燃料 | 高炉製鉄 | 還元鉄製造 | 合金鉄 | 製鉄耐火物 | 製鋼原料 | 製鋼基礎    | 溶解・精錬 | casting | 製鋼耐火物 | 塑性加工 | 熱処理 | 表面処理・防食 |
| 加 工     |       |      | 材 料   |     |       |      |         |       |         |       |      |     |         |
| 15      | 16    | 17   | 18    | 19  | 20    | 21   | 22      | 23    | 24      | 25    |      |     |         |
| casting | 粉末冶金  | 溶接   | 基礎物性  | 組織  | 性質    | 分析   | 試験・検査技術 | 計測・制御 | 管理環境情報  | その他   |      |     |         |

### 原稿用紙，合本ファイル有償頒布について

- 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)  
1 冊 400円 (〒 250円)， 2～3 冊 (〒 300円)
- 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)  
1 冊 400円 (〒 250円)， 2～3 冊 (〒 300円)
- 講演前刷用原稿用紙

鉄と鋼用 (1 枚 5 円)，Transactions ISIJ 用 (1 枚 10 円)

郵送頒布の場合は下記のとりの枚数を限定させていただきます。なお 50 枚以上の場合は係までお問合せ下さい。

|                | 10 枚  | 20 枚  | 30 枚  | 40 枚  | 50 枚  | 備 考       |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 鉄 と 鋼 用        | 290 円 | 450 円 | 500 円 | 550 円 | 950 円 | } 料金は送料込み |
| Transactions 用 | 340 円 | 440 円 | 650 円 | 750 円 | 850 円 |           |

- 「鉄と鋼」用合本ファイル  
1 冊 250円 (送料別)
- 申込方法 ①原稿紙の種類，②枚数，③送付先明記のうえ，④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。
- 申 込 先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課

## 欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第 102 回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年2回(春・秋)開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、ポスターセッション方式による講演の導入や、最近では欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知の通りわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することは大変有益であるとのことから、昭和55年1月発行の欧文誌から講演概要(英文)を掲載いたしておりますが、海外より大変好評をいただいております。今102回(昭和56年11月)大会は、下記により公募いたしますので、奮つてご投稿下さいますようお願い申し上げます。

### 記

- I. 副原稿(コピー原稿)締切日 昭和56年11月30日(月)  
(56年7月15日締切の講演原稿(和文)と同時提出も可)
- II. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙1枚(図、表、写真を含む)  
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容 原稿は講演概要(和文)の内容とまったく同じものを原則とします。やむを得ず内容が異なる場合は、改めて英文原稿の和文直訳を同封して下さい。
- IV. 執筆の仕方 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約80%縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
  - 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し(ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート(12 pitch)でsingle space(64行)、2段打ちにして下さい。
  - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
  - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従って下さい。
- V. 原稿提出
  - 1) 投稿のさいは、最初に副原稿(コピー原稿)1枚をご提出下さい。そのコピー原稿により英文校閲がなされ、その結果が編集委員会より連絡されますので、そのうえで本原稿を提出願います。
  - 2) 上記締切日以降は受け付けられません。注) 副原稿(コピー原稿)とは、執筆要領にのつとつた形式でタイプされたもの、あるいは本原稿をコピーしたものです。  
注) 講演概要投稿後、投稿規程に従つて Research Article として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載
  - 1) 掲載にあつては英文校閲がなされますので、結果によつては英文修正を依頼することがあります。
  - 2) 欧文誌(Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan) Vol. 22 (1982). Nos. 1~6 に亘つて掲載されます。
- VII. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階  
問合せ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)

## 昭和 57 年春季 (第 103 回) 講演大会討論会

### 討論講演募集のお知らせ

昭和 57 年春季 (第 103 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします

#### 1. 討論会テーマ

##### I 高炉の省オイル操業技術 座長 飯塚 元彦

近年、オイルの高騰から製鉄所の脱オイル、特に高炉の省オイル操業（オールコークス操業等）化が急激に進み、コスト低減に大きな効果をあげている。しかし現状のオールコークス操業では羽口先温度の上昇等から、炉況安定および操業度、コークス比等の面で多くの問題を抱えている。本討論会において、現在の操業解析、理論検討の状況、将来の省オイル操業のあり方について、活発な発表と討論をお願いしたい。

##### II 新しい転炉製鋼技術 座長 森 一美 副座長 川上 公成

転炉製鋼法において、純酸素底吹法、上吹きに底吹きを併用する方法、ランス旋回法、あるいはスラグ生成を大幅に変えた方法など新しい吹錬技術の開発が積極的に進められている。これらのプロセスにおいては、気・液・固相の混合相の接触の仕方や流体力学的条件に変更を加えることにより、より優れた冶金反応特性を得ようとするものである。本討論会では新しい転炉製鋼技術に関し、脱炭反応やスラグ-溶鋼間反応の機構、浴内の攪拌、ガスジェットの挙動や粉体吹込み反応の動力学など、コールドモデル、ホットモデルによる基礎研究から実機での試験あるいは操業を含めた論文の発表をお願いしたい。

##### III 亜鉛系めつき鋼板およびその製造法 座長 安藤 成海

近年亜鉛めなきを中心とする防蝕鋼板の需要が拡大されつつあり、特に自動車分野では車体防錆による車命延長が急務とされ、亜鉛並びに亜鉛系合金めつき鋼板が使用鋼板類の中心的素材になろうとしている。

そこで、今回は自動車用防錆鋼板を目的とした各種の亜鉛並びに亜鉛系合金めつき鋼板と、その製造法に関し幅広い討議を行いたい。即ち溶融めつきにおいては片面めつき法、また電気めつきでは新しい亜鉛系合金めつき鋼板およびその製造条件等につき積極的な発表と討論参加をお願いしたい。

##### IV 快削鋼の現状と将来 座長 阿部山尚三

切削加工の自動化・無人化が進み、被削材料に対する工具寿命の延長・安定化、切りくず処理性の改善に加え、製品に対する軽量・高強度化、信頼性向上などの要求が強い。これに呼応して快削元素の切削機構面からの研究をはじめ介在物組成・形態制御、有害介在物の低減および連続鑄造の適用などが精力的に行われている。しかし、加工技術の急速な進歩に対応するためには快削鋼の現状を見つめ将来の方向づけを得たい。多方面からの発表と討論を期待する。

##### V 鋼材の延性破壊 座長 三村 宏

鋼構造物が延性破壊を生じても従来は設計応力が不適當か予想外の荷重が加わったかが原因であるとして材質まで問題にされることはなかつた。近年極端な高応力設計（高压ガスパイプライン）とか予測外の荷重、地震（貯槽、高層建築）でも延性破壊を最小にとどめようとして材質面からの対策が考えられるようになった。これらの問題に対してどのような延性特性（例えば  $\delta_1$ 、Rカーブ、降伏比…）が関連をもつのかそしてこれらの延性特性と冶金学的要因の関係について広く討論を期待する。

#### 2. 申込締切日 昭和 56 年 8 月 7 日 (金)

#### 3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

#### 4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

#### 5. 講演前刷 昭和 56 年 11 月 6 日 (金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内（表、図、写真を含め 1 ページ 6,700 字）に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

#### 6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 68 年第 1 号 (昭和 57 年 1 月号) にて発表いたします。

#### 7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 68 年第 2 号 (2 月号) に講演内容を掲載いたします。

#### 8. 討論質問の公募締切日 昭和 57 年 2 月末日

前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

## 石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和 56 年 6 月 30 日

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもつて、「石原・浅田研究助成金制度」を設け昭和 47 年度より助成金を交付しております。ついては、今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者は協会所定の様式をもつて応募して下さい。

記

### 1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する個人またはグループとし、研究者の年齢は原則として 35 才以下とする。(大学院博士課程学生を含む。)

### 2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年間とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

### 3. 交付金額

総額 200 万円以内 (1 件 40 万円, 5 件程度)

### 4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の項目は次の通りである。

- (1) 研究課題
- (2) 研究者氏名, 所属, 他
- (3) 研究の目的
- (4) 研究の実施計画, 方法
- (5) 研究の特色, 独創的な点
- (6) 従来の研究経過, 成果または準備状況
- (7) 同種研究の国内外における研究状況
- (8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会総務部宛

4) 申請締切 昭和 56 年 6 月 30 日

### 5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行い、理事会で決定する。

### 6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に会告し、同時に研究代表者に連絡する。

### 7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究代表者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

### 8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 3000 字程度の報告書を作成し研究期間終了後 1 カ月以内に提出しなければならない。また研究成果について発表する際には本助成金を受けた旨明示しなければならない。

印刷物として発行された場合には、その送付をもつて報告書に代えることができる。

なお、助成金についての経理報告は省略することができる。

### 9. 石原・浅田研究助成金について

昭和 33 年以来故石原米太郎殿 (当時、特殊製鋼株式会社社長。同社は昭和 51 年 9 月に大同製鋼株式会社および日本特殊鋼株式会社の 3 社合併により、大同特殊鋼株式会社となる) の寄贈により石原米太郎研究資金が設定されその果実をもつて研究助成金の交付を行っていましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念資金の毎年の果実の過半も研究助成金にあてることになりました。そこでこれらを一つにまとめて「石原・浅田研究助成金」と改称して昭和 47 年度から交付しているものです。

## 第 6 回材料集合組織国際会議開催案内

The 6th International Conference on Textures of  
Materials (ICOTOM 6)

昨年(昭和 55 年) 11 月 30 日締切で標記国際会議の講演募集をいたしましたところ内外から反響を呼び、合わせて 157 件の応募がありました。現在 3rd circular の発行と同時に会議への参加者を募っております。詳細は下記の通りですが、皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 程 昭和 56 年 9 月 28 日(月)～10 月 3 日(土)  
見学会は 10 月 5 日(月), 6 日(火)
2. 会 場 経団連会館 11 階国際会議場及び 10 階 1002 号室
3. 協 賛 日本金属学会 軽金属学会 日本結晶学会 日本材料学会
4. プログラム
 

|             |                        |                                                                                                                                                                  |
|-------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9/28(月) 11F | 9:30～10:00             | Registration                                                                                                                                                     |
|             | 10:00～10:30            | 開会式                                                                                                                                                              |
|             | 10:30～11:30            | Opening Lecture I 長嶋晋一(横浜国立大学工学部金属工学科)<br>"The research on textures and its application to industry in Japan"                                                    |
|             | 11:30～12:30            | Opening Lecture II Prof. Dr. K. Lücke (Technische Hochschule Aachen)<br>"Description of the rolling and recrystallization textures of F. C. C. metals by ODF's". |
| Sessions    |                        |                                                                                                                                                                  |
|             | 11F 14:00～17:50        | 4) Recrystallization textures (I)                                                                                                                                |
|             | 10F 14:00～17:50        | 11) Properties (I)                                                                                                                                               |
| 9/29(火)     | 11F 9:30～16:00         | 1) Deformation textures                                                                                                                                          |
|             | 16:20～18:10            | 3) Deformation and recrystallization textures                                                                                                                    |
|             | 10F 9:20～15:40         | 11) Properties (II)                                                                                                                                              |
|             | 16:00～18:00            | 10) Minerals, Non-metals                                                                                                                                         |
| 9/30(水)     | 箱根へのエクスカッションが予定されています。 |                                                                                                                                                                  |
| 10/1(木)     | 11F 9:30～15:50         | 2) Taylor's Model                                                                                                                                                |
|             | 16:10～18:00            | 4) Recrystallization textures (II)                                                                                                                               |
|             | 10F 9:30～16:40         | 6) Low Carbon sheet steels                                                                                                                                       |
|             | 16:40～18:00            | 5) Transformation textures (I)                                                                                                                                   |
| 10/2(金)     | 11F 9:30～12:10         | 9) Hexagonal Metals                                                                                                                                              |
|             | 14:00～17:50            | 5) Transformation textures (II)                                                                                                                                  |
|             | 10F 9:30～12:40         | 13) Symposium (Technics)                                                                                                                                         |
|             | 14:00～18:00            | 13) " (ODF I)                                                                                                                                                    |
| 10/3(土)     | 11F 9:30～10:50         | 12) Elastic Properties                                                                                                                                           |
|             | 11:10～15:00            | 7) Stainless steels                                                                                                                                              |
|             | 10F 9:30～16:00         | 13) Symposium (ODF II)                                                                                                                                           |
5. 講 演 Opening lecture 2 件 invited paper 18 件を含む国内 51 件, 国外 106 件 (19カ国) の計 157 件の論文が提出され, 活発な討論が期待されます。
6. 用 語 会議はすべて英語で行なわれます。
7. 参加費 3万円 (Pre-Prints, Proceedings 代を含む) なお, パーティ代 ¥5,000—  
エクスカッション ¥5,000— 見学会参加費は別に支払い願います。
8. 参加申し込み 昭和 56 年 8 月 10 日締切 3rd circular の中の Registration Form に必要事項をご記入の  
うえ下記までお送り下さい。
9. 連絡先 会議に参加御希望のかた 3rd circular (仮プログラム Registration Form 入り)  
をご入用の方は下記宛御連絡下さい。  
〒100 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
(社)日本鉄鋼協会 国際課 TEL (03) 279-6021 (担当: 青木)

# 日本鉄鋼協会役員

昭和56年4月2日開催の年会第66回通常総会において理事、監事および評議員の選挙が行なわれました結果、下記のごとく当選されましたのでお知らせいたします。

## 理事 (任期2年 15名)

|       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 有賀 慶司 | 大谷 正康 | 加藤 健三 | 川合 保治 | 木下 亨  | 草川 隆次 |
| 小島 浩  | 古茂田敬一 | 近藤 真一 | 高橋 久  | 田畑新太郎 | 津谷 和男 |
| 春山 志郎 | 水野 実  | 宮川 松男 |       |       |       |

## 監事 (任期2年 1名)

矢野 巖

## 評議員 (任期2年 121名)

|        |       |        |       |       |       |
|--------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 秋田 正弥  | 阿部 譲  | 有村 康男  | 安藤 卓雄 | 池上 平治 | 池島 俊雄 |
| 池田 正   | 池田 正夫 | 石原 重利  | 石原 幸男 | 井上 敏郎 | 今井 光雄 |
| 今井勇之進  | 岩村 英郎 | 植村 光雄  | 生方 泰二 | 漆山 信夫 | 大内 俊司 |
| 大竹 正   | 大谷南海男 | 大中都四郎  | 大日方達一 | 大野 篤美 | 大野喜久蔵 |
| 大和田野利郎 | 大森 康男 | 大矢根大器治 | 沖信 春男 | 荻野 和巳 | 小田 助男 |
| 河西 健一  | 慳原 昌夫 | 加藤 栄一  | 片山仁八郎 | 金尾 正雄 | 金尾 實  |
| 河島 喜好  | 岸田 壽夫 | 木寺 淳   | 木村 利秋 | 木村 宏  | 熊田健三郎 |
| 熊谷 典文  | 楠 謙吾  | 五弓 勇雄  | 後藤 和弘 | 小沼 敬祐 | 小松 登  |
| 小南 曠   | 粉生 宗幸 | 小柳 明   | 佐野 幸吉 | 佐野 信雄 | 澤 繁樹  |
| 沢村 宏   | 三本木貢治 | 設楽 斉   | 柴山 武雄 | 清水 正博 | 末光 秀雄 |
| 菅沢 清志  | 杉沢 英男 | 鈴木 正敏  | 鈴木 英夫 | 須藤 一  | 角南 平  |
| 住友 元夫  | 角野 尚徳 | 相馬 胤和  | 染野 檀  | 高石 誠二 | 田阪 興  |
| 高梨 省吾  | 高橋 孝吉 | 高橋 忠義  | 武井 英雄 | 館 充   | 田中 実  |
| 田中 良平  | 津田 鉄夫 | 津田 信二  | 堤 信久  | 徳永 洋一 | 戸崎 誠喜 |
| 外島 健吉  | 豊田 茂  | 鳥越 熊衛  | 中川 龍一 | 中村 正久 | 西岡 邦夫 |
| 西澤 一彦  | 長谷川正男 | 長谷川正義  | 蜂谷 茂雄 | 林 主税  | 原岡 正敏 |
| 久松 敬弘  | 平世 将一 | 藤原 達雄  | 不破 祐  | 松田 公扶 | 松原 嘉市 |
| 三井田逸朗  | 溝口龍太郎 | 三輪 親光  | 守川喜久雄 | 森田善一郎 | 門間 改三 |
| 八木貞之助  | 八木 靖浩 | 八塚 健夫  | 藪田 東三 | 山岡 武  | 山崎 芳樹 |
| 山下 伸六  | 山本 信公 | 横地 節男  | 吉崎 鴻造 | 吉田 浩  | 吉田 博吉 |
| 渡辺 省三  |       |        |       |       |       |

## 東海支部

### 特別講演会案内

(入場無料)

日時：昭和56年7月16日(木) 14:00~15:30  
 場所：名古屋市中区丸の内 3-1-6  
 愛知県産業貿易館西館3階第17会議室  
 題目：「金属鉱物資源の動向」  
 講師：東京大学工学部資源開発工学科  
 教授 武内寿久禰

## 第1回破壊力学シンポジウム講演募集

主催：日本材料学会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか  
 期日：昭和56年10月1日(木)、2日(金)  
 会場：大阪科学技術センター 大阪市西区靱本町 1-8-4  
 講演申込締切 6月20日(土)  
 前刷原稿締切 7月22日(月)  
 問合せ・申込先 日本材料学会破壊力学シンポジウム係  
 (〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101  
 電話 075-761-5321)

## 九州支部

## 第46回学術講演会および支部総会ならびに

## 第21回湯川正夫記念講演会開催案内

標記講演会・総会を下記のとおり開催いたしますので、多数ご参加下さいませよう御案内申し上げます。

記

日時 昭和56年6月19日(金) 9:00~17:10

会場 九州工業大学(金属工学教室) 北九州市戸畑区仙水町1

## 第1会場

座長 植田 安昭

- 9:00 (1)  $\text{SrO-SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ ,  $\text{ZnO-SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$  系の粘性について  
九工大(院) ○岡本 一徳  
九工大 溝口 数一, 杉之原幸夫
- 9:20 (2)  $\text{B}_2\text{O}_3$  系融体の物性  
九大総理工(院) ○関屋 寛治  
九大総理工 宇都宮公昭(現住友金属鉱山)  
森永 健次, 柳ヶ瀬 勉
- 9:40 (3) 製鋼系合成スラグの凝固組織と風化崩壊性  
久留米工専 ○馬越 幹男  
九大工 森 克己, 川合 保治
- 10:00 (4)  $\text{Na}_2\text{O-SiO}_2$  系融体に対する  $\text{As}_2\text{O}_5$  の平衡溶解度  
久留米工専 ○重松 浩気, 久保甚一郎  
(休)
- 座長 杉之原幸夫
- 10:30 (5)  $\text{As}_2\text{O}_5$  急冷試料の赤外吸収スペクトル  
久留米工専 ○久保甚一郎, 重松 浩気
- 10:50 (6)  $\text{CO-N}_2$  混合ガスならびに  $\text{H}_2\text{-N}_2$  混合ガスによる酸化鉄ペレットの還元速度の解析に関する考察  
九大工 ○村山 武昭, 小野 陽一  
九大(院) 吉原 隆史(現日鉄)
- 11:10 (7) Fe-Ni 合金とホルステライトセラミックスの接着の試み  
熊大工 ○白根 義則, 千葉 昂  
松本 孝史
- 11:30 (8) 製鋼ダスト処理  
九工大 ○野口 文男, 中村 崇  
植田 安昭
- 11:50 (9) コンピューターによる加熱炉自動燃焼制御  
住友金属工業小倉 ○山内 裕, 高津 明彦  
上野 保長

## 第2会場

座長 大和田野利郎

- (1) 銅の溶接熱影響部の切欠靱性に及ぼす Ti および N の影響  
九工大 ○西尾 一政, 田島 清司  
加藤 光昭, 迎 静雄
- (2) マルエージング銅の復元挙動に及ぼす冷間加工の影響  
九大工 ○高木 節雄  
徳永 洋一
- (2) アルミニウムの焼鈍による亜粒界の消滅過程  
福教大 ○古川 稔  
九大(院) 戸上 義明  
九大工 美浦 康宏
- (4) 銅単結晶の単軸引張における格子回転と変形組織について  
九大工 ○宮代永 明, 美浦 康宏  
(休)
- 座長 迎 静雄
- (5) タングステンの繊維組織と機械的性質  
九工大(院) 中野 修  
九工大 ○田上 耕司, 松田日出彦  
日本タングステン 森 敏寿
- (6) Al-CuAl<sub>2</sub> 共晶複合合金の高温強度  
九大総理工 ○山下 慎次, 後藤 正治  
吉永日出男
- (7) 基地組織の異なるステンレス鋼の熱疲労特性について  
九大工 ○徳重 昇司, 稲葉 年昭  
大城 桂作, 松田 公扶
- (8) 焼入 Al 結晶の降伏と初期変形  
九大工 ○篠原 和敏, 田中 淳夫(現新日鉄)  
船津 裕二(現筑波大院), 北島 貞吉
- (9) 亜鉛の {1122} <1123> すべりによる初期変形  
熊大工 ○頼田 英機, 川崎 頼雄  
〃(院) 緒方 広昌(現浮羽工業高校)

(昼 12:10~13:00)

12:50~13:10 支部総会

13:10~14:30 湯川記念講演会

講師 新日鉄常務堺製鉄所長 加藤 健(演題未定)  
(休 憩)



- 座長 吉永日出男
- 14:40 (10) ニッケル中の高温水素ガス透過法に関する考察  
九大(院) ○山原 晃  
九大工 羽木 秀樹, 林 安德
- 15:00 (11) 銅中の水素の拡散および溶解  
長大工 坂本 芳一  
○高尾 慶蔵
- 15:20 (12) Ti および V を含む Fe-Ni 合金の C D 浸炭  
熊大(院) ○桜木 彰彦  
熊大工 菊川 史郎(現三井三池製作所)  
千葉 昂

(休

- 座長 徳永 洋一
- 15:50 (13) 鋼板の曲げ加工条件に関する一考察  
日立造船有明工場 古田 庄五, 若泉 一士  
○大野 八郎, 谷 潤一, 林 良三  
技研 中島 宏幸, 豊貞 雅宏
- 16:10 (14) Fe-3.5at%Mo 合金の高温における内部応力の加工硬化率と回復速度  
九大総理工(院) ○中垣 博司  
九大総理工 栗下 裕明, 吉永日出男
- 16:30 (15) 応力の歪速度依存性と P-L 効果  
九大工 ○小野寺龍太, 清水 峯男  
古賀 守
- 16:50 (16) 異種金属の固相接合に及ぼす諸因子の影響  
九大工 ○上戸 好美, 小野寺龍太  
清水 峯男

(注) 学術講演は1講演につき講演15分, 討論5分以内といたします。なお講演会終了後, 懇親会を予定しております。会員多数ご参加下さい。

- 座長 北島 貞吉
- (10) 二次元結晶におけるクラスタリングの計算機実験  
鹿児島工専 ○池田 英幸  
九工大 松田日出彦
- (11) ポリスチレン・ラテックスにおける合金構造  
長大工 ○中島 弘道  
羽坂 雅之
- (12) 超高压電子顕微鏡を用いた純銅の構造因子の決定  
九大総理工(院) ○渡辺 尚人, 松畑 洋文  
九大超高压電顕 友清 芳二  
九大総理工 江口 鉄男

憩)

- 座長 松田日出彦
- (13) Fe-Co 合金の昇温過程における電気抵抗変化について  
都城工専 ○田原 良信  
九大総理工 沖 憲典, 江口 鉄男
- (14) Fe-Cr 合金の  $\alpha \rightarrow \gamma$  変態におよぼす Ni 添加の影響  
九大(院) ○金子 寿輝  
熊大(院) 中野富治郎(現日立造船)  
熊大工 千葉 昂
- (15) Nb-Zr 合金の電子線照射損傷  
九大(院) ○山本 直  
室尾 洋二(現神戸製鋼)  
九大工 仲井 清眞, 木下 智見  
北島 貞吉
- (16) 中性子照射銅結晶の変形における二次すべりの役割  
九大(院) ○藤永 英司, 中村 祐三  
九大工 篠原 和敏, 北島 貞吉

### 第26回材料強度と破壊国内総合シンポジウムの開催について

共催 日本材料強度学会, 日本鉄鋼協会, ほか  
日 時: 昭和 56 年 6 月 20 日 (土) 9:10~16:20  
場 所: 東京工業大学講堂(東京都目黒区大岡山2-12-1)

- I. 高温強度における新しい諸問題の提起
- (1) 高温ガス炉用超耐熱合金の高温強度における諸問題  
金材技研 吉田平太郎, ほか
- (2) 核融合関係を例とした高温強度  
原 研 奥 達雄
- II. 破壊力学の新らしい方向へのアプローチ
- (3) 破壊力学におけるクリチカルな諸問題  
東北大工 横堀 武夫
- III. 各種機器・構造物の破損事故のケース

スタデーへの接近

- (4) 石油タンクの強度と破損事故  
消防研 亀井 浅道
- (5) 動荷重を受ける諸機械・機器の破損事故  
新日鉄 西田 新一, ほか
- (6) 産業機械・機器類における破損事故  
産業安全研 近藤 太二, ほか
- (7) 原子炉における構造部材の破損とその対策  
原 研 近藤 達男

参加無料

シンポジウム論文集(約130頁)1部3,200円(送料別)締切 昭和 56 年 5 月 20 日(水)まで  
問合・論文集申込先 日本材料強度学会  
〒980 仙台市荒巻字青葉 東北大学工学部材料強度研究施設気付 電話 0222-22-1800 内線 4142

**第 18 回金属関係学協会東北支部連合****シンポジウム**

- 主 題：自動車工業と金属材料  
共 催：日本金属学会東北支部，日本鉄鋼協会東北支部  
（ほか）  
日 時：昭和56年7月3日（金）13:00～17:00  
場 所：東北大学工学部金属系大講義室
- 講演題目
1. これからの自動車と金属材料（60分）  
トヨタ自工本社 大橋 正昭
  2. 自動車用鉄鋼材料の現況と課題（60分）  
新日本製鉄製品技術研究所 高橋 久
  3. 粉末冶金の現況と今後の展望（40分）  
日産自動車中央研究所 山本 維行
  4. 企業と大学の間（40分）  
トヨタ中央研究所 小松 登

**第 25 回材料研究連合講演会講演募集**

- 共 催 日本学術会議材料研究連絡委員会，日本機械学会，本会ほか  
開 催 日 昭和56年10月5日（月），6日（火）  
会 場 日本学術会議（東京都港区六本木 7-22-34）  
開催要領 講演内容はすでに発表されたものでもさしつかえない。研究内容は材料の諸物性，諸性質の測定および試験ならびに材料の適切な使用に関する応用研究を包含する。  
講演部門 I. 微視的構造，II. 材料の力学的性質と挙動，III. 材料の物理的性質，IV. 材料の化学的性質，V. 構造物強度，VI. 材料の製造・加工と処理，VII. その他  
申込期限 昭和56年6月30日（火）  
問合・講演申込先 日本機械学会材料研究連合講演会係  
〒151 東京都渋谷区代々木 2-4-9 三信北星ビル5階  
電話（03）379-6781

**第 21 回真空技術夏季大学のご案内**

- 主催：日本真空協会 協賛：日本鉄鋼協会，ほか  
日 時 昭和56年8月19日（水）～22日（3泊4日）  
場 所 愛知県三河三谷ホテル「四海波」  
Tel. (05336) 8-2141  
（東海道新幹線豊橋，または東海道線三河三谷下車）  
会 費 一般 46,000 円，協賛学協会員 41,500 円，  
（宿泊費，食費，テキスト代を含む）  
定 員 100 名  
申込締切 7月20日  
問合・申込先 日本真空協会  
〒105 東京都港区芝公園 3-5-8  
機械振興会館 512 号室  
電話（03）431-4395

**金属の連続鋳造技術シンポジウム**

- 主催：日本金属学会 協賛：日本鉄鋼協会  
日 時 昭和56年6月19日（金）10:00～16:00  
場 所 学士会分館6号室（東京都文京区本郷，東大赤門脇 電話 03-814-5514）
- (1) 金属の連続鋳造技術 川鉄技研 江見 俊彦
  - (2) 鋼の新しい連続鋳造法  
日立日立研 新山 英輔
  - (3) 銅および銅合金の連続鋳造における最近の動向 古河電工日光研 中野 耕作
  - (4) アルミニウムの連続鋳造におけるホットトップ鋳造法  
昭軽金加工研 三田村良太
  - (5) 金属の急冷凝固法 京大工 新宮 秀夫
  - (6) 回転液中紡糸法 阪大工 大中 逸雄
  - (7) 総合討論
- 前刷1部 600 円（送料 200 円），参加費不要  
申込先 980 仙台市荒巻字青葉 日本金属学会  
電話 0222-23-3685（代）

**第 38 回腐食防食シンポジウム****主題：耐海水ステンレス鋼について**

- 主催：腐食防食協会 協賛：日本鉄鋼協会，ほか  
と き 昭和56年7月10日（金）10:00～16:00  
と ころ 社会文化ホール（山口県新南陽市富田 2569 新南駅下車，T E L 0834-62-0001）
- 講 演
- (1) オーステナイト系およびフェライト系耐海水ステンレス鋼の特性  
新日鉄光 小野山征生
  - (2) 耐海水性2相ステンレス鋼  
住金中研 諸石 大司
  - (3) アメリカにおける耐海水合金の使用実績  
日本インタナショナル Ni  
M. A. CORDOYI
  - (4) 高 Mo ステンレス鋼（20Cr-22Ni-5Mo-02N）の海水性  
神戸製鋼中研 杉江 清
  - (5) Sandvik2RK65 使用実績  
サンドビックジャパン 窪田 幸二
  - (6) 耐海水オーステナイト系ステンレス鋼の特性と問題点について  
日本ステンレス直江津 小林末子夫
  - (7) 総合討論 司会（予定） 大谷南海男
- 問合・申込先 （社）腐食防食協会  
（〒101 東京都千代田区神田神保町 2-23  
T E L 03-261-3275）  
参加費 会員（協賛学協会員を含む）2,000 円  
会員外 3,500 円（当日受付で受領）

**金属加工技術の進歩講習会のお知らせ**

主催：日本機械学会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか  
 日時 昭和 56年 7月 14日(火)、15日(水)  
 9:20~16:30  
 場所 ダイヤモンドホール(ダイヤモンド社ビル10階)  
 東京都千代田区霞ヶ関 1-4-2、電話 (03)504-6779  
 材料複合化技術の展望 金材技研 岡根 功  
 溶射技術の進歩 慶応義大 蓮井 淳  
 HIPによる加工技術の進歩 三菱金属 土井 英和  
 加工技術の変遷と展望 愛知工大 春日 保男  
 鋳造技術の進歩 早 大 草川 隆次  
 ロボットを用いた加工技術の進歩  
 富士通ファナック 稲葉 肇  
 高密度エネルギー加工技術の進歩 阪 大 荒田 吉明  
 超塑性材料と加工技術の展望 東 大 宮川 松男  
 定員 100名、申込み先着順 申込締切 7月3日  
 聴講料 会員(協賛団体会員を含む) 12,000円(学生員  
 3,000円) 会員外 25,000円(いずれも教材1冊  
 分代金を含む)  
 問合・申込先 〒151 東京都渋谷区代々木 2-4-9  
 (三信北星ビル5階) 日本機械学会

**International Conference-Niobium 81**

期 日 1981年 11月 8~11日  
 場 所 San Francisco, U.S.A  
 (当初同年11月9~12日、Rio de Janeiro で開催が予定されていましたが上記のとおり変更されました。)  
 主 催 Associação Brasileira de Metais (ABM)  
 共 催 (社)日本鉄鋼協会ほか9団体  
 内 容 1. Mining and Extraction  
 2. Production and Processing of Niobium Based Materials  
 3. Metallurgy of Niobium and Niobium Alloys  
 4. Applications of Niobium Based Materials  
 5. Application of Niobium As a Microalloy in Steels  
 6. Application of Niobium As an Alloying Element  
 7. Niobium in the Future  
 なお参加要領は下記宛お問合せ下さい。  
 Prof. David G. Howden, The Ohio State Univ.,  
 190 West 19th Avenue, Columbus, Ohio 43210  
 U. S. A.

**「鉄と鋼」特集号原稿募集案内**

**テーマ：高強度薄鋼板**

**原稿締切日：昭和 56年 10月 15日(木)**

最近自動車の燃費低減などをはじめとする社会的要請を背景に成形用薄鋼板の高強度化への関心が高まり、その適用例もほかに増えつつあります。このような動向を反映して、本協会の春秋の講演大会の状況からもうかがえるように、この分野に関する研究と開発には基礎・応用の両面にわたり著しい進歩がみられるように思います。そこで、今回は高強度薄鋼板の組織設計および組織因子と諸性能との関連に焦点をあて、今後この分野の一層の進歩に寄与できることを期待し、特集号を企画いたしました。この特集号には一応次のような内容を含めたいと考えておりますので、独創的な論文あるいは技術報告のご投稿をお願いいたします。

- 組織形成、組織と強度・延性など
- 製造技術と製品特性(熱延製品、冷延製品、表面処理製品など)
- 成形性、溶接性、表面処理性など
- 疲労特性、成形部材としての諸性能など

記

1. テー マ 高強度薄鋼板
2. 原稿締切日 昭和 56年 10月 15日(木)
3. 発 行 鉄と鋼第 68年 第9号(昭和 57年 7月号)
4. 原稿枚数 表、図、写真を含めて所定の原稿用紙
  - 1) 論文 50枚以内(刷上り 10ページ以内)
  - 2) 技術報告 35枚以内(刷上り 7ページ以内)
  - 3) 原稿は本会寄稿規定に基づいて執筆下さい。
  - 4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。
5. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3F  
 (社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時、原稿表紙に「高強度薄鋼板特集号」と朱書して下さい。

### 第18 回理工学における同位元素研究発表会 開催のおしらせ

日時 昭和56年6月29日～7月1日 9:30～18:00  
 場所 国立教育会館5階, 6階(地下鉄虎ノ門下車)  
 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-3(文部省となり)  
 主催 日本アイソトープ協会, 本会ほかの共同主催  
 特別講演

1. The State of the Art of Semiconductor and Nuclear Electronics in Nuclear Radiation Spectroscopy EG&G M. Martini
2. ポジトロンCTの開発 放医研 田中 栄一
3. 放射能利用の進歩 筑波大 池田 長生
4. 水素状トリチウムの環境における挙動 放医研 岩倉 哲男
5. 微弱中性子線量の測定 東大工 関口 晃
6. 生命科学環境科学分野における安定同位体利用に関する世界の概況 公害研 太田庸起子
7. わが国における安定同位体利用研究の現状と展望 東大農 熊沢喜久雄

一般講演  
 放射線測定, 放射線検出器, 天然放射能, 利用機器, 照射効果, 放射化分析, トレーサー, 安全取扱など各分野に亘り 202 件  
 問合せ, プログラム請求先  
 日本アイソトープ協会  
 (〒113 文京区本郷 2-28-25, 電話 03-946-7111)

### 第7回「マトリックス解析法に関する シンポジウム」の開催について

主催: 日本鋼構造協会 協賛: (社)日本鉄鋼協会, ほか  
 開催期間: 昭和56年7月15日(水)～17日(金)  
 9:00～17:00  
 会場: 日本交通協会大会議室(新国際ビル9F)  
 東京都千代田区丸の内 3-4  
 発表論文: 下記各部門に亘り 75 論文  
 a) 基礎理論および計算法. b) 薄板構造および殻構造. c) 非線形問題. d) 動的問題  
 e) 構造設計および応用. f) 地盤・岩盤問題. g) 熱・流体問題. h) データ処理

### Third Process Technology Division Conference on Application of Mathematical and Physical Models in the Iron and Steel Industry

期日: 1982年3月28～31日  
 場所: Pittsburgh, Pennsylvania, U.S.A.  
 主催: AIME (A Constituent Society of American Institute of Mining, Metallurgical, and Petroleum Engineers)  
 内容: ① the application of mathematical or physical modeling in coke  
 ② iron and steel-making—ladle treatment, teeming—ingot and continuous casting  
 ③ solidification—post solidification, heat treatment, quenching and reheating—final finishing  
 ④ hot and cold rolling

なお, 200字以内のアブストラクトを募集していますので, 1981年7月1日までに, 題目をそえて, 直接下記宛ご送付下さい。

J. K. Brimacombe  
 Dept. of Metallurgical Engineering  
 University of British Columbia  
 Vancouver, B. C. V6T 1W5  
 Canada